



製糖作業が始まり、日本甜菜製糖芽室製糖所へ続々と運び込まれるビート
順調に生育が進んだ一方、糖度は昨年を下回る見通し

ビート 丸々太り収量増

糖度は17%割れの見通し

砂糖の原料となるビートは平年より根部肥大が進み、順調に生育した。収量は前年から微増で、今年も全道一の生産量を見込む。一方、秋口の寒暖差が少なかったことから、糖度は昨年を下回る見通しだ。

道農政部によると、今年の十勝産ビートは前年比0.9%増の170万トの生産を見込む。4〜9月の日照時間(帯広市内)が平年比で9%長いことが影響し、根周が平年より6%太く生育した。

農家の収入にも直結する糖度は下がる見通し。糖度は2017年(17.2%)、18年(17.3%)と2年連続で17%の大打を越え、今年も16%後半の数字が見込まれている。ビートは秋口の寒暖差で糖度が上がるが、8月後半から9月にかけて最低気温が高かった。また収穫期に雨が続き、糖度が上がらなかったとみられている。

豆類 干ばつで生育ばらつき

前年からは収量増

豆類は、5月の好天では種作業はスムーズに進み、大豆をはじめとして平年より早いか平年並みに作業が終わった。しかし5月下旬の少雨と高温で小豆や大豆で出芽の不着が目立った。

6月に入り降雨と日照で生育のばらつきは解消され回復傾向になったものの、7月中旬は低温と日照不足が続いて遅れが出た。その後の高温によって小豆では開花期の落花が発生した。生育の

遅れで莢(さや)の数が少なく、実の数も思うように増えなかった。収穫作業も遅れて、未熟な状態でも刈り取らざるを得ないケースもあった。

周期的な気象変動が例年になく大きかったため期待通りに挽回できず、出芽期の干ばつの影響が最後まで響く結果となった。不作だった前年に比べると収量、品質は確保された。



小豆の収穫作業(音更町)。豊作基調の農作物にあって豆類は苦戦した



ひっぱりくん®
動力ユニット

動力で
らくらく〜



後進OK!!

ひっぱりくんに
プラス!!



定植動画へGO!! HPD-2



日本甜菜製糖株式会社

Nippon Beet Sugar Manufacturing Co., Ltd.

札幌営業所 札幌市中央区北3条西4丁目1-1 ☎011-261-6142

ペーパーポット 検索 http://www.paperpot.jp/

ロール式施肥播種機

2020年春発売



FSS-4 (4輪)



- 高速時でも安定した播種を実現
- ダブルタンクを搭載
- 対応種子:ビート



土回収装置付主詰機 DON-C

ターン反転機 DON-R

ロール式施肥播種機・DONシリーズのお問い合わせは

サークル機工株式会社

帯広営業所 帯広市稲田町南9線西13番地1

☎0155-66-9451

本社 滝川市幸町3丁目3-12

☎0125-22-4350

サークル機工 検索 http://www.circle-kiko.co.jp/

